

# ヤドランカ JADRANKA 生誕祭 2022

トリビュートライブ

## 1. シュトテネーマ～あの歌が聴こえる (作詞：友利歩未 作曲：ヤドランカ)

クミコ(Vo) 喜多直毅(Vln) 鬼怒無月(G)

サラエボ冬季オリンピックのテーマソング『ŠTO TE NEMA(シュトテネーマ)』を日本語詞でヤドランカが歌った。

シュトテネーマとは”あなたはなぜ此処にいないのか?”という意味。

## 2. アンジョ ANDJO (作詞・作曲：ヤドランカ)

坂田美子(Vo・琵琶) 稲葉美和(箏) 鬼怒無月(G)

ヤドランカが三つのマケドニア民謡を一曲にリメイク。アンジョとは美しいマケドニア娘アンジャへの呼びかけで「アンジャよ」という意味。

(語尾変化するアンジャ→アンジョ) タンブーラ弾きの青年が「君は金持ちのトルコ人と結婚するのかい」と語り掛け、アンジャはそれを否定する。

## 3. 俳句 HAIKU (作詞：乙字・子規・一茶・宗祇 作曲：ヤドランカ)

坂田美子(Vo・琵琶) 稲葉美和(箏) 鬼怒無月(G) 芳垣安洋(Ds)

浮世絵や俳句に興味を持っていたヤドランカが来日以前、旧ユーゴ時代にドキュメンタリー番組のために制作。

小林一茶らの四つの俳句をつなげて曲を付けた。祖国で愛されている彼女の代表作の一つ。

## 4. 悲しみを燃やして Vandal Hearts - Burning Sorrow (作詞：ヤドランカ 作曲：山内雅弘)

喜多直毅(Vln) 鬼怒無月(G) 芳垣安洋(Ds)

コナミデジタルエンタテインメントのゲーム「Vandal Hearts ～失われた古代文明～」のテーマ曲。飛行とは飛ぶこと。落下もまた飛ぶこと。

落ちる時にも希望はあるのだとヤドランカは歌った。

## 5. 誰かがサズを弾いていた (作詞：友利歩未 作曲：ヤドランカ)

坂下忠弘(Vo) 稲葉美和(箏) 鬼怒無月(G) 喜多直毅(Vln) 坂田美子(Vo・琵琶) 芳垣安洋(Ds)

サズはトルコやバルカン半島諸国に伝わる民族楽器で、その祖型はシルクロードを通して形を変えながら洋の東西に伝わった。サズという楽器のことを多くの人に知ってもらうために物語性のある歌にした。NHK「みんなのうた」で放送され話題となる。

----- 休憩 15分 -----

## 6. スペイン階段の誘惑 (作編曲：coba)

coba (accordion) 鬼怒無月(G)

ヤドランカはすべての国々の音楽は全部繋がっていると常々語っていた。ローマにあるスペイン階段をタイトルに含めたこの曲はイタリア滞在の長いcobaによるスパニッシュな作品。アコーディオンとギターの掛け合いが絶妙。

## 7. TAMAMOE (作詞：ヤドランカ 作曲：coba)

coba (accordion) 坂下忠弘(Vo) 坂田美子(Vo) 稲葉美和(箏) 喜多直毅(Vln) 鬼怒無月(G) 芳垣安洋(Ds)

cobaが音楽を担当した阪本順治監督の映画「魂萌え」のテーマソング。オリジナルはブルガリアの伝統的な民族音楽(女性合唱)とヤドランカの声のコラボが力強くも優しい作品。今回はcobaによるこのライブのための新アレンジ。

## 8. 予感 (作詞：ヤドランカ 作曲：山内雅弘)

坂下忠弘(Vo) 稲葉美和(箏) 鬼怒無月(G) 芳垣安洋(Ds)

コナミデジタルエンタテインメントのゲーム「幻想水滸伝」のCM曲。ボスニア語の歌詞には夢が壊されても、それでも夢を見ることを諦めないヤドランカの想いがこもる。海外でも人気の作品。

## 9. 一日がもっと長ければ (作詞：Zujo Valerijan 作曲：Sipka Zarko)

クミコ(Vo) 坂田美子(琵琶) 稲葉美和(箏) 鬼怒無月(G)

祖国でも親しまれている作品。かつては幸せな時を過ごしていたのに、今は心が通わなくなってしまった恋人たちの悲しみの歌。

## 10. 火の蜚 (作詞：坂田美子 作曲：ヤドランカ)

坂田美子(Vo・琵琶) 稲葉美和(箏) 喜多直毅(Vln) 鬼怒無月(G) coba (accordion) 芳垣安洋(Ds)

薩摩琵琶の坂田美子、尺八の坂田梁山、箏の稲葉美和、パーカッションの木村たかのぶによる演奏者集団“びかむ”のファーストアルバム「七つの海」(ヤドランカプロデュース)に収録。ヤドランカのアルバム「ベイビー・ユニヴァース」ではボスニア語でヤドランカが歌っている。



ヤドさんとのバルカンツアーでは、街のあちこちで『ヤドランカ!』と声を掛けられ、その度に誰とでも握手してハグして、街の皆がヤドさんの旧友の様でした。そして、レストランやホテルでは、メニューにない1品が出てきたものです。あの時の彼女は、ラジオにテレビに取材にと引っ張りだこで、あまりに忙しそうなので、同行していた坂田さんと2人だけでカフェに行き、ケーキを食べてきたら、『なんで誘ってくれないの〜』って、お茶目なヤドさんでした。ヤドさん!今、自由ですか?

稲葉美和

ヤドランカさんがサラエボにお帰りになってから、ボスニア戦争を映画化した作品を見ました。それは想像を絶する世界でした。『こんなところで生きていたんだ、ヤドランカさんは…』と大きなショックを受けました。映画という虚構の世界の中ではありましたが、人間が持つ残酷さや醜さがリアルに描かれていました。実際の戦場には映画とは比べ物にならないくらい酸鼻を極める光景が広がっていたに違いありません。そんな戦争を経験して、祖国を離れ、日本で歌い続けたヤドランカさん。彼女の清々しく、切なく、可憐で、慈しみに満ちた歌声の背景には、抗い難い運命や死があると思います。彼女と演奏をさせて頂いていた頃(三十代)、なかなかそこまで思いを致すことが出来ませんでした。あれから年月が経ちました。今回は改めてヤドランカさんの生きて来た道や歌に託したものに耳を傾けつつ演奏をさせて頂いたら嬉しく思います。

喜多直毅



cobaさんの紹介でヤドランカと演奏するようになったのは、確か1998年位だったと思います。それから2011年に彼女がサラエボに帰国するまで、いろいろな場所で演奏しました。一緒に演奏していたときは自分も音楽家として非常に不安定で色々迷惑もかけた気がしますが、彼女はパツとしない演奏の時も自分のことをいつでも優しく受け入れてくれていました。今はもう一緒に演奏することは叶いませんが、せめて今日、ヤドランカを愛してやまない方々と一緒に、ヤドランカの歌や彼女に聞いてもらいたかった音楽を演奏する事で、もう一度ヤドランカと心を通わせられたらと思います。良いライブになります! 皆さん楽しんでくださいね。 鬼怒無月

ヤドランカさんは、どこの国の人なんだろう。 クロアチアだと思っていたが、どうやらもっと複雑なようだ。私のおじいさんはどこどこ、おばあさんはどこどこ。 そんな風に沢山の国が混じってヤドランカさんになった。人間はただ人間であるだけなのだ。ヤドランカさんは、人間の根っこを教えてくれた。ありがとう。ヤドランカさん。

クミコ



ヤドランカと一緒にたくさん曲を作りました。

類稀なる声と素晴らしいメロディセンスから生まれる世界観は唯一無二。僕の様々なプロジェクト、映画、アルバム、ツアー、イベント、テレビドラマのテーマ曲にも参加してくれて、彼女はその度に稀有な存在感を發揮しました。フランクフルトで彼女のアルバムレコーディングに参加した時、極上の自家製食後酒に酔い、朝まで語り合った事がまるで昨日のよう。思い出は尽きません。

coba

ヤドランカさんのことを知ったのは「NHKみんなのうた」で放送された「誰かがサズを弾いていた」がきっかけです。楽曲を聴きヤドランカさんの声とその作品世界に魅了され、実際にシルクロードの砂漠でこの楽曲を聴くことが夢となりました。そして僕はその夢を叶えて来ました。遙か昔の旅人に思いを馳せながら悠久のタクラマカン砂漠を旅し、ヤドランカさんの歌う「誰かがサズを弾いていた」を聴くのは格別でした。現在の夢は二年前に購入したサズでこの作品を演奏すること。今回のライブでは初めてボスニア語の歌「予感」にも挑戦します。今、この世界で戦争が起こっているという現実。争いを繰り返す人間の愚かさ、悲しみ…。それでも消えることのない希望を託して、この歌を歌わせていただきます。

坂下忠弘



同じイベントで偶然で会い、彼女の美しい歌声に心惹かれ是非共演したいと私から申し出ました。琵琶奏者として古典曲にはないものを求めている私は、民族楽器のサズを奏でながら独自の歌世界を作っている姿にとっても感銘を受けました。

私が琵琶で作った曲に、新たにヤドランカさんがサズのメロディと彼女の歌を付けてくれた「火の螢」は私の宝物です。

コンサート以外にも国内外の旅先などで一緒に過ごした沢山の時間は、彼女の笑顔と共にずっと心の中に残る大切な思い出です。

坂田美子



ヤドランカと演奏を一緒にし出したのは四半世紀も前、彼女がオーマガトキ・レーベルを離れた頃。妻の高良久美子が古くからの知り合いだったこともあって、演奏を共にしただけでなく、彼女の家にもよくお邪魔した。

母国では国民的大歌手でしたが、とても気さくでチャーミング。時折見せるパンキッシュなセンスも本当に素敵でした。色んな事情でお蔵入りになってしまった彼女と録音した大量の音源が、いつか日の目を見ることを切に願っています。

芳垣安洋

